

〔論 説〕

千葉商科大学の共通入門科目に相応しいプログラムは何か  
—千葉商科大学の共通入門科目はどうあるべきか (3) —

田 中 信一郎

目次

1. はじめに
2. ピアラーニングとは何か
3. リーディングのプログラム
4. シンキングのプログラム
5. ライティングのプログラム
6. 総合のプログラム
7. おわりに

1. はじめに

本稿は「千葉商科大学の共通入門科目はどうあるべきか」(以下「第一論説」という。)及び「千葉商科大学の共通入門科目で教えるべき技法とは何か」(以下「第二論説」という。)によって明らかにした課題を受け、科目で採用すべきプログラムについて検討する。第一論説は、千葉商科大学(以下「本学」という。)の基盤教育機構における共通入門科目がどうあるべきかについて、学びのための基本的な技法について、高校までに修得できていないとの前提で丁寧に教育し、その社会における意味合いを伝える講義とすることが適当と論じた。第二論説は、科目で教えるべき技法について、リーディング、シンキング、ライティング、ピアラーニングの4技法であり、前3技法については初歩からの三段階で教育内容を構成し、学生が着実に技法を修得できることが重要と論じた<sup>(1)</sup>。

第二論説では、リーディング、シンキング、ライティングについてもつづら論じた。第一論説で論じた読解力、論理的な思考、文章構成力、問いを立てること、他者との協働という学びのための基本的な技法を具体的に置き換えたものである。リーディングは思考するための文章理解の技法、シンキングは問いから結論まで切れ目なく考える技法、ライティングは思考を文章として表現する技法と、それぞれ定義した。

第二論説で残された課題の一つは、具体的なプログラムの検討であった。どのようなプログラムを実施すれば、4技法を修得できるのか。

また、第二論説では、ピアラーニングを十分に検討できなかった。ピアラーニングとは

---

(1) 田中信一郎「千葉商科大学の共通入門科目はどうあるべきか」『千葉商大論叢』第60巻第2号、2022年11月。  
田中信一郎「千葉商科大学の共通入門科目で教えるべき技法とは何か—千葉商科大学の共通入門科目はどうあるべきか (2)」『千葉商大紀要』第60巻第2号、2022年11月。

どのような技法なのか。特に、他の技法とピアラーニングを合わせて身につけるにはどうすればいいのか。

そこで本稿では、まずピアラーニングについて検討し、次にピアラーニングの視点を全面的に取り入れたプログラムについてリーディング、シンキング、ライティング、総合の順に検討する。その際、導入（ステップ1）、基礎（ステップ2）、発展（ステップ3）の三段階にそれぞれ整理する。

## 2. ピアラーニングとは何か

ピアラーニングについては「学生同士で学び合う技法」と定義する。日本では、一般的に「協同学習（Cooperation Education）」の語が用いられるが、技法よりも広い意味を有するため、ここでは「ピアラーニング（Peer Learning）」の語を用いる。協同学習については「日本協同教育学会」が2004年に発足し、「グループ学習が協同学習ではない」との共通認識で活動している。協同学習は「学び合いをうまく促すための手法を連ねることをめざしたものではなく、「主体的で自律的な学びの構え、確かで幅広い知的習得、仲間とともに課題解決に向かうことのできる対人技能、さらには、他者を尊重する態度」を「練り、それを実現するための多様な工夫を原理から考えていく実践的な学習指導理論」を指す。本稿のピアラーニングは、それらの要素を一部なりとも含むものであるが、技法として論じるため、協同学習の語を用いないこととした<sup>(2)</sup>。

ピアラーニングは、教育心理学で中心的に用いられている概念である。これは「同じような立場の仲間（ピア）とともに支え合いながら、ともにかかわりをもちながら、知識やスキルを身につけていくこと」で、「教師やコーチ、指導者と学習者といった上下の関係にもとづく教えと学びのあり方とは異なるプロセスがそこには含まれて」いる。協同学習の定義からすれば、より狭く、協同学習の一つと考えられる。本稿では、こちらの考え方を採用している<sup>(3)</sup>。

ピアラーニングの特徴は、互惠性、対等性、自発性に基づく学び方にある。互惠性とは「指導者が学習者に対して一方的に恵みを与えるというのではなく」「お互いが学び手にも教え手にもなり、恵みをもたらしながら学習が深まっていくという特質」である。対等性とは「ピアが同じような立場の仲間」で「意見が表明しやすくなったり、お互いのことを受けとめやすくなったりするよさ」をもつ関係である。自発性とは「自分たちで考えを出し合い、問題解決の過程を自分たちの力で進めていくような学びの側面」である<sup>(4)</sup>。

ピアラーニングは、大きく9種類の概念に分かれると考えられている。それぞれ頭に「ピア（Peer）」を付けた「チュータリング（Tutoring）」「モデリング（Modeling）」「モニタリング（Monitoring）」「アセスメント（Assessment）」「レスポンス（Response）」「カウ

(2) 日本協同教育学会編『日本の協同学習』ナカニシヤ出版、2019年。8頁。

(3) 中谷素之／伊藤崇達『ピア・ラーニング—学びあいの心理学』金子書房、2013年。2頁。なお、本書は「ピア」と「ラーニング」のあいだに「・」を入れているが、本稿では「・」を入れず、「ピアラーニング」で統一している。

(4) 中谷素之他前掲3頁。

ンセリング (Counseling)」「サポート (Support)」「エデュケーション (Education)」「メンタリング (Mentoring)」である<sup>(5)</sup>。

本学の共通入門科目においては、ピアチュータリング、ピアモデリング、ピアモニタリング、ピアアセスメント、ピアレスポンスの前5者の概念が有効と考えられる。ピアチュータリングとは「何らかのスキルの獲得を目的とした二者による学びあいのこと」である。ピアモデリングとは「仲間の行動を観察すること、まねることから学ぶこと」である。ピアモニタリングとは「学習の過程や手続きが適切か効果的かについて仲間がモニターすること」である。ピアアセスメントとは「グループのメンバーの学習の過程や成果について仲間が評価を行うこと」である。ピアレスポンスとは「学習者がお互いの文章を読み合せて、話し合う活動のこと」である。いずれも、人間関係の有無にかかわらず、共に学習をする間柄という基盤だけでも有効に機能する学び合いの概念である。

他方、後4者の概念は、共通入門科目よりも学部でのゼミナール活動等で有効な概念と考えられる。なぜならば、いずれも一定の人間関係を構築した（する途上の）仲間が、関係性を強化しつつ、学びあいを進める概念だからである。ピアカウンセリングとは「傾聴をする、肯定的、支持的であることによって生活上の問題について仲間が支援をすること」である。ピアサポートとは「仲間同士の間人間関係を豊かにするために学んだ知識やスキルをもとに、仲間を思いやり、支える実践活動のこと」である。ピアエデュケーションとは「人生における微妙な問題についてインフォーマルな仲間集団の状況において話し合うこと」である。ピアメンタリングとは「特定の領域において経験のあるピア（先輩者）が、一対一の関係で支持したり励ましたりする活動のこと」である。

ピアラーニングにおける教員の役割は、コミュニティの構築、学習のモデル、活動のコーディネーター、評価者の4種ある。コミュニティの構築とは「共通の目的を強調する」「相互の尊重を促進する」「他者が援助を求めていることに気づかせる」ことである。学習のモデルとは「認知的、メタ的な方略を使用するモデルとなる」「相手を励まし、順番を守り、考えを精緻化するといった構成的な社会的スキルにどう取り組むかを見せる」ことである。活動のコーディネーターとは「(学生を)どのグループに割りあててかを決める」「グループを回り、社会的、認知的な活動をモニターする」ことである。評価者とは「活動に対する評価基準を与える」「(学生が)自分自身やグループの過程を評価するよう導く」「フィードバックを与える」ことである<sup>(6)</sup>。

これらのなかで、教員が特に留意すべきは「認知的、メタ的な方略を使用するモデルとなる」ことである。これは「自ら学ぶ」方法であり、教員がそれを学生に促す（気づきを与える）ことである。具体的には、認知的方略とメタ認知的方略に分けられる。認知的方略とは「学習内容を何度も繰り返して覚える（リハーサル）」「学習内容を言い換えたり、すでに知っていることと結びつけたりして学ぶ（精緻化）」「学習内容をグループにまとめたり、要約したりして学ぶ（体制化）」「根拠や別の考えを検討する、批判的に吟味してあらたな考えを得ようとする（批判的思考）」ことである。メタ認知的方略とは「目標を設定し、課題の分析を行う（プランニング）」「注意を維持したり、自らに問いかけたりする

(5) 中谷素之他前掲 222 頁。

(6) 中谷素之他前掲 224 頁。

(モニタリング)」「認知的活動が効果的に進むように継続的に調整をはかる(調整)」ことである。ここから、共通入門科目を担当する教員に対して、教育心理学を踏まえた研修を行う必要が見出される<sup>(7)</sup>。

加えて、プログラムを開発する教員には、学習課題の準備、課題の開発の役割が求められる。学習課題の準備とは「課題の複雑さのレベルの選択や、オープンエンドな形式にするかどうかなど、学習課題の選択を行う」ことである。課題の開発とは「グループにとって価値ある課題をデザインする」ことである。これらは本来、講義を担当する教員それぞれに委ねられるが、共通入門科目として同一の講義内容を複数の教員が分担して提供することから、担当教員の一部あるいは全員がプログラムを開発する教員としての役割を担うと考えられ、別としている<sup>(8)</sup>。

ピアラーニングは、第一論説で論じたように「新しい概念の教養教育」で育成が求められる能力の一つであることに加え、それ自体が有効な学習方法である。先行研究から、その主たる効果は3つあると考えられる。第一に、他者に対して説明を行い、質問に答えることを通じて、自分自身に説明すること(自己説明)を同時に行うこととなり、説明を精緻化すると考えられている。第二に、他者から説明を聞き、質問することを通じて、新たな考え方や気づきを得られると共に、概念的理解が深まると考えられている。第三に、他者と相互に知見を提供し合い、関連づけを行うことで、新たな知見の枠組みや視点を創出すると考えられている。つまり、相互に知見を発展・統合させることで、学習内容への理解が深まると考えられている<sup>(9)</sup>。

しかし、ピアラーニングには、多くの長所がある一方で、フリーライダーの出現等という短所が内在している。具体的には「誰々に任せてしまおうというように、仲間によらせて「ただ乗り」する成員が出てくる」「能力の高い子が、自分たちが利するようにリーダーシップをとったり言葉巧みに誘導したりする」「早く終わらせたいがために、能力の高い子が手取り早く説明してしまう」「グループでの取り組みが、成員間の軋轢や勢力争いにより失敗してしまう」「一人を単純作業に押し込めるなど、作業分担の片寄り(が起きる)」「一部のメンバーの示し合わせによる誘導、同調圧力による論争性の欠如や少数意見の締め出し(が起きる)」ことである。プログラムの開発に際しては、これらの短所を小さくするデザインが求められる<sup>(10)</sup>。

また、ピアラーニングは、それを単独で身につける技法でなく、他の技法を学ぶなかで合わせて身につける技法である。ワークショップやゲーム等を通じて、その修得を目的として、単独で身につけることは不可能でないが、他の技法を身につける学習手法として用いれば、より効率的である。

そこで、以降のリーディング、シンキング、ライティングを身につけるプログラムにおいて、ピアラーニングの手法を全面的に採用する。例外となるのは、身につけた技法の振り返りを自分自身で行う期末レポートだけである。

(7) 中谷素之他前掲 78-80 頁。

(8) 中谷素之他前掲 222 頁。

(9) 中谷素之他前掲 126-127 頁。

(10) 日本協同教育学会編前掲 312 頁。

### 3. リーディングのプログラム

リーディングのプログラムは、長い文章を読むことへの心理的ハードルを下げるステップ1、文章の読みわけを理解するステップ2、長い文章を理解して他者に伝えるステップ3の三段階とする。本を含む長い文章へのハードルを下げることをステップ1としているのは、小学生から中学生、高校生へと成長するにつれて、多くの学生が読書をしなくなるためである。全国学校図書館協議会によると、1か月間の読書量について、小学生12.7冊、中学生5.3冊、高校生1.6冊となっている。0冊の割合は、小学生5.5%、中学生10.1%に対し、高校生49.8%となっている。この傾向は大学生になっても続き、全国大学生生活協同組合連合会の調査によると、50.5%の学生が1日の読書時間を0分と回答している<sup>(11)</sup>。

プログラム数は、各ステップで2つずつとし、シンキングなど他の技法においても同じとしている。これは、本学で共通入門科目を実施する際、105分の講義を春学期と秋学期それぞれで13回行うこととなり、リーディング、シンキング、ライティング、総合それぞれで6プログラムずつ、合計24プログラムあれば、科目の柱として十分と考えられるためである。一つのプログラムにかかる時間数は、講義時間の半分程度から、複数講義にわたるものまで様々ある。

プログラムの検討に際しては、教員の専門性による違いや大学施設等の制約についても考慮した。詳しくは別稿にて改めて論じる予定であるが、教員の役割を講義及びワークのコーディネーターと位置づけ、原則として学生6人で1グループを編成する前提で、プログラムを検討している。そのため、異なる教員であっても同じプログラムを実行できるようにすると共に、程度の差はあるにしても、ピアラーニングをほとんどのプログラムに取り入れている。

前述したピアラーニングの短所についても、一定の考慮を行う。ただし、対策については、別稿にて論じる予定であるため、本稿では割愛している。

#### 3-1. ビブリオバトル・導入（ステップ1）

ビブリオバトルとは、複数人で行う書評ゲームである。考案者は「書評を媒介としたコミュニケーションの場づくり手法」と定義している。「ビブリオバトル普及委員会」という団体が示す「公式ルール」は、次の4つである。①発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。②順番に一人5分間で本を紹介する。③それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分行う。④すべての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員一人1票で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。具体的な手順等は表1のとおりである<sup>(12)</sup>。

狙いは、本を読む機会をつくることと、学生間の親睦を深めることにある。既読の本で

---

(11) 全国学校図書館協議会「第66回学校読書調査(2021年)」における「5月1か月間に読んだ本の冊数」の回答。全国の小学4-6年生1,994人、中学1-3年生1,971人、高校1-3年生4,902人の抽出調査。全国大学生生活協同組合連合会「第57回学生生活実態調査概要報告(2021年)」における「読書時間」の回答。全国の国公立・私立大学の学部生10,813人の抽出調査。

(12) 谷口忠大『ビブリオバトルー本を知り人を知る書評ゲーム』文芸春秋、2013年。16-17頁。

あっても、他者に紹介するとなれば、改めて読み直すことが求められる。また、後者については「書評という形を通して自分の考えや意見を主張する機会を得ること」になり、「発表者の隠れた人となりや個性、知識、背景に関する相互理解が深まる」と考えられている。つまり、一般的な自己紹介の機会に加えて、ビブリオバトルを行うことで、学生間の親睦がさらに深まると考えられる<sup>(13)</sup>。

この導入においては、本の種類等について制限をかけず、学生の好きな本を持参させる。公序良俗に反するものでない限り、マンガでも絵本でも雑誌でも構わないこととする。まずは本を読むことへのハードルを下げることと、学生の自己紹介を通じた親睦を狙いとするためである。

一方、初年次教育において求められるレベルの本については、別の機会に改めてビブリオバトルを行う。導入のビブリオバトルは、春学期の初期で実施し、第二回目のビブリオバトルに向けた練習を兼ねる。

表1 ビブリオバトル・導入

プログラム	ビブリオバトル・導入 (ステップ1)
技法	リーディング
概要	学生が好きな本を持ち寄って紹介し、もっとも読みたくなった本を決める。
時間	1 講義回
手順	①実施する講義の前回にビブリオバトルのやり方を紹介(動画)し、本を持ち寄るよう呼び掛ける。 ②グループでルールに則り、チャンプ本を決める。③各グループのチャンプ本の紹介者が全員の前でビブリオバトルを行い、クラスのチャンプ本を決める。
備考	1人1冊を持ち寄る。第12回講義で「新書しぼり」のビブリオバトルを行うと伝えて、準備をさせる。

### 3-2. 本を借りる図書館ツアー (ステップ1)

これは、図書館利用への心理的なハードルを下げることを狙いとし、通常の図書館ツアーの最後に、学生に1冊以上の本を借りさせるものである。図書館には情報検索に関する様々な機能があり、学生に対して日常的に図書館利用に親しませることが、大学での学びの基本となる。なかでも、実際に本を借りて読むことが、一般的な図書館利用の方法となる。具体的な手順等は表2のとおりである。

実際に本を借りさせることで、心理的ハードルが下がることについては、行動科学に基づく交通政策の知見を援用している。交通政策の一つに「モビリティ・マネジメント」という手法があり、マイカー利用が常態化している人に対し、働きかけを行うことで公共交通利用への転換を促す。ベースとなっているのは、マイカーだけを移動手段として利用する人は、公共交通の利用経験がないことに伴う心理的ハードルで、公共交通を利用しないことがあるという知見である。同様に、図書館で本を借りた経験のない学生は、その経験がないことに伴う心理的ハードルで、本を借りないことがあると考えられる。そのため、

(13) 谷口忠大前掲97頁。

図書館ツアーに本を借りるまでをセットとする<sup>(14)</sup>。

表2 本を借りる図書館ツアー

プログラム	本を借りる図書館ツアー（ステップ1）
技 法	リーディング
概 要	通常の図書館ツアーの最後に、学生に1冊以上の本を借りさせる。
時 間	1 講義回
手 順	①教室で図書館の楽しさを説明（動画）してから、図書館に移動する。②図書館ツアーを行う。③講義終了の15分前に1冊以上の本を借りて集まることを指示する。④何人かの学生（ランダムに指名）に、借りてきた本と借りた理由を発表させる。
備 考	教員は、借りてきた本と理由を批判せず、必ず肯定的に受けとめる。

### 3-3. 新聞社説の読み分け（ステップ2）

これは、意見と事実を読み分ける力を高めるため、新聞の社説を読み、意見と事実を仕分けするものである。これは「学生が批判的な読み方」を身につけ、「中身について論じられるようになるのに役立つ」プログラムである。学生間で教え合いや議論をすることで、読解力の全体的な底上げも図る。具体的な手順等は表3のとおりである<sup>(15)</sup>。

社説については、予め受講生共通で用いるものを選定する。担当教員の裁量で、クラスごとに異なる社説を用いるのではない。プログラムの質を確保しつつ、担当教員の負担を軽減するためである。

表3 新聞社説の読み分け

プログラム	新聞社説の読み分け（ステップ2）
技 法	リーディング
概 要	新聞の社説を読み、意見と事実を仕分けする。
時 間	0.5 講義回
手 順	①作業のやり方を説明する（動画）。②全員に同じ社説を配布し、意見に四角囲い、事実に波線を引かせる。③グループ内で答え合わせのようにディスカッションさせる。④正答を配布し、改めてグループ内でディスカッションさせる。
備 考	社説利用に際しての権利関係をクリアする必要がある。

### 3-4. PREP リーディング（ステップ2）

これは、新聞の社説をPREP法に従って3種類に仕分けするものである。PREP法とは、P = 意見・主張 (Point), R = 理由 (Reason), E = 例／根拠・データ／詳細説明 (Example/Evidence/Explanation) それぞれの頭文字を取ったものである。具体的な手順等は表4の

(14) 藤井聡／谷口綾子『モビリティ・マネジメント入門―「人と社会」を中心に据えた新しい交通戦略』学芸出版社、2008年。

(15) エリザベス・F・パークレイ／クレア・ハウエル・メジャー『学習評価ハンドブック―アクティブラーニングを促す50の技法』東京大学出版会、2020年。135-138頁。

とおりである<sup>(16)</sup>。

狙いは、学術論文等を読む際の基本となる、意見・主張、理由、根拠を読み分ける力を高めることにある。前述の意見と事実の読みわけよりも高度となる。また、PREP法はライティングの基本でもあり、その準備にもなる。

表4 PREPリーディング

プログラム	PREPリーディング (ステップ2)
技法	リーディング
概要	新聞の社説を読み、PREP法に従って3種類に仕分けする。
時間	0.5講義回
手順	①作業のやり方を説明する(動画)。②全員に同じ社説を配布し、Pに四角囲い、Rに直線、Eに波線を引かせる。③グループ内で答え合わせのようにディスカッションさせる。④正答を配布し、改めてグループ内でディスカッションさせる。
備考	社説利用に際しての権利関係をクリアする必要がある。

### 3-5. ビブリオバトル・新書しばり (ステップ3)

これは、学生が一定の新書シリーズの中から好きな本を持ち寄って紹介し、もっとも読みたくなった本を決める。春学期の第12回講義に実施し、春学期において最大のクラスイベントとする。導入と同様に、ビブリオバトル普及委員会のビブリオバトル公式ルールに則る。具体的な手順等は表5のとおりである。

狙いは、大学の教科書レベルの本を通読し、他者に説明できるレベルで理解できるようになることにある。そのため、持ち寄る本は、岩波新書、岩波ジュニア新書、ちくま新書、ちくまプリマー新書、中公新書等のシリーズに限定する(しばりをかける)。これらは、大学において教科書や参考図書に指定されることの多いシリーズであり、学術的な議論の入門書として相応しい本が多いからである。また、出版点数が多く、1学年全員が同時に選ぶことになっても、他の学生と重ならず自分に合う本を見つけることが可能と考えられる。少なくとも、学術的に見て玉石混交な本が多い新書シリーズは、指定から外す必要がある<sup>(17)</sup>。

(16) 倉島保美『ロジック構築の技術』あさ出版、2021年。155-159頁。

(17) 岩波書店ホームページによると、2022年9月17日現在で、岩波新書2,822件、岩波ジュニア新書964件がヒットする。同様に、筑摩書房ホームページによると、ちくま新書1,692件、ちくまプリマー新書420件がヒットする。中央公論新社ホームページによると、中公新書763件がヒットする。



表5 ビブリオバトル・新書しばり

プログラム	ビブリオバトル・新書しばり（ステップ3）
技 法	リーディング
概 要	指定された新書シリーズの中から、学生が好きな本を持ち寄って紹介し、もっとも読みたくなった本を決める。
時 間	1 講義回
手 順	①ビブリオバトル・導入の最後に、新書しばりで行うことを伝える。②グループ（6人）でルールに則り、チャンプ本を決める。③各グループのチャンプ本の紹介者（6人）が全員の前でビブリオバトルを行い、クラスのチャンプ本を決める。④全クラスのチャンプ本を全1年生に共有する（図書館等で紹介する）。
備 考	春学期の第12回講義で実施する。指定される新書シリーズを予め徹底する。

### 3-6. ジグソー・リーディング（ステップ3）

6パートに分けた論文や新聞記事について、ジグソー法を用いて読み込みと理解を深めるプログラムである。ジグソー法とは協同学習の重要な技法で、次のように解説されている。「ホームチームのメンバーは、それぞれがジグソー・パズルのピースを分配するように、異なる課題の一部を受け取ります。次に、各メンバーはホームチームを離れ、同一の課題を持つ者同士で専門家グループを作り、その課題に取り組みます。その後、自分のホームチームに戻り、専門家チームで学んできたことを他のメンバーに説明します。」「ジグソーは個々のメンバーの役割責任を明確化するとともに、目標達成のために協力せざるを得ない学習状況を作る方法だといえます。」具体的な手順等は表6のとおりである<sup>(18)</sup>。

狙いは、専門用語等が用いられている長文を正確に理解できるようにすることにある。同じ文章について、他者の理解を聞き、自らの理解をブラッシュアップさせるように反映させることで、自らだけでは難しい多様な文章解釈や深い文章理解に気づかせる。

親しい関係でない他者と協力し合あえることも、ジグソー法の特徴であり、狙いに含めている。ジグソー法は、1970年代に人種差別のある学校で、人種間を超えて協力し合う学習法を模索するなかで生まれ、発展してきた経緯があり、親しくない他者への尊重や好意を醸成する効果があると考えられている。同時に、学習者自身の自尊心を高めることも分かっている。そのため、リーディングの技法を学ぶプログラムであると同時に、ピアラーニングの技法を学ぶプログラムになる<sup>(19)</sup>。

(18) D.W. ジョンソン／R.T. ジョンソン／E.J. ホルベック『改訂新版学習の輪—学び合いの協同教育入門』二瓶社、2010年。222-223頁。

(19) エリオット・アロンソン／シェリー・パトノー『ジグソー法ってなに？—みんなが協同する授業』丸善プラネット、2016年。114-115頁。

表6 ジグソー・リーディング

プログラム	ジグソー・リーディング (ステップ3)
技法	リーディング
概要	6パートに分けた論文や新聞記事について、ジグソー法を用いて読み込みと理解を深める。
時間	1講義回
手順	①作業のやり方を説明する。②6種類の論文・記事を各グループに配布し、グループ内で分担を決める。③その後、単独で論文・記事を読む。その際、インターネット等でわからない言葉等を調べながら読む。④同じ種類(パーツ)の論文・記事を担当する学生同士で集まる。学生は、読んで理解できなかった点を他の学生に尋ね、教え合う。その後、説明の練習をする。⑤再び、元のグループに集まり、自分が担当する論文・記事を他の学生に説明する。分からない点はその都度、質問する。⑥6種類の論文・記事を受けて、グループ内で一人一人意見を述べる。
備考	専門的な文章を用いるため、秋学期に実施する。

#### 4. シンキングのプログラム

シンキングのプログラムは、考えること自体への心理的ハードルを下げるステップ1、発散的な思考と収束的な思考を理解するステップ2、抽象的な思考を理解するステップ3の三段階とする。アメリカカレッジ・大学協会による「批判的思考」「創造的思考」「実践的思考」のルーブリックでは、17の項目を評価の視点として取り上げている。批判的思考が「問題の説明」「エビデンス」「背景と思い込みの影響」「学生の立場(視点, 主張, 仮説)」「結論とそれに伴う成果(示唆, 結果)」であり、創造的思考が「能力獲得」「リスク負担」「問題解決」「相反するものの受容」「革新的思考」「結合, 統合, 改変」であり、実践的思考が「問題の定義」「方策の特定」「解決策・仮説の提案」「候補となる解決策の評価」「解決策の実施」「成果の評価」である。これらのうち、「問題の説明」「エビデンス」「背景と思い込みの影響」「学生の立場(視点, 主張, 仮説)」「結論とそれに伴う成果(示唆, 結果)」「相反するものの受容」「問題の定義」について、思考力の基盤になると考え、プログラムの検討で重視した<sup>(20)</sup>。

##### 4-1. 推理パズル (ステップ1)

これは、文章を注意深く読むことで解くパズルである。文章の論理を理解できれば、誰にでも解ける一方、論理を理解できなければ、永遠に解けない。日本語の文章を正確に理解し、それに基づいて論理的に考えることを促す点で、優れたパズルと考えられる。図1はその例である。具体的な手順等は表7のとおりである。

狙いは、思考する行為そのものへのハードルを下げることにある。パズルは、思考すること自体を楽しむゲームであり、多くの研究者が余暇としてパズルを楽しんできた。例えば、物理学者のエンリコ・フェルミ(Enrico Fermi)が好んだとされる概算パズルにちなんだ「フェルミ推定」は広く知られ、多くの研究者たちを魅了してきた。そこで、パズル

(20) エリザベス・F・バークレイ他前掲127-130頁。

によって、思考すること自体を楽しみ、ハードルを下げることができると考えられる<sup>(21)</sup>。

アキオたち5人が、5種類の味があるおせんべいを、バリバリとたくさん食べました。5人の話から、それぞれがバリバリと食べたおせんべいの味と、食べた枚数を推理して当ててください。なお、5人はそれぞれ異なる1種類の味のおせんべいを食べ、食べた枚数もバラバラでしたよ。バリバリ。

		おせんべいの味				食べた枚数				
		しょうゆ 炒	カレー	青のり	梅ざらめ	4 枚	6 枚	8 枚	12 枚	16 枚
名前	アキオ									
	シュンタ									
	ヨシナリ									
	オサム									
	キンジロウ									
食べた枚数	4枚									
	6枚									
	8枚									
	12枚									
	16枚									

アキオ 「オレはしょうゆ味のおせんべいを食べたよ。ヨシナリは、シュンタのちょうど2倍の枚数食べていたよな」  
 シュンタ 「食べた枚数が12枚だった人は、青のり味のおせんべいを食べていたよ」  
 ヨシナリ 「梅ざらめ味のおせんべいを食べた人は、しょうゆ味のものを食べた人より2枚だけ多くの枚数食べていましたな」  
 オサム 「オレが食べたおせんべいの枚数は、4枚だけだったぜ。キンジロウは、カレー味のおせんべいは食べていなかったぜ」  
 キンジロウ 「塩味のおせんべいを食べた人の枚数は16枚ではなかったね」

図1 推理パズルの例（ニコリ『きっちり推理パズル』ニコリ，2019年。15頁。）

表7 推理パズル

プログラム	推理パズル（ステップ1）
技法	シンキング
概要	推理パズルの解き方について説明を受けてから、パズルを解く。
時間	0.5 講義回
手順	①推理パズルの紹介と解き方を解説する（動画）。②全員に複数問の推理パズルを配布し、単独で解かせる。③正解のみ示し、グループ内で解き方を教え合わせる。④もっとも難しい問題の解き方を解説する（動画）。
備考	権利関係をクリアするため、作問に際してはパズル会社の協力を得ることが必要と考えられる。

#### 4-2. ロジカルシンキングエクササイズ（ステップ1）

これは、論理的な思考力を高めることを狙いとし、そのためにつくられたドリルを解くものである。ドリルは、国語教育の研究者である佐藤佐敏が開発したもので、図2のように、論理と言葉の関係を視覚化する「ロジックツリー」を用いる。一部が空欄になったロジックツリーについて、空欄を埋めていく。具体的な手順等は表8のとおりである<sup>(22)</sup>。

(21) ローレンス・ワインシュタイン／ジョン・A・アダム『フェルミ推定力養成ドリル』草思社，2019年。

(22) 佐藤佐敏『5分でできるロジカルシンキング簡単エクササイズ』学事出版，2016年。

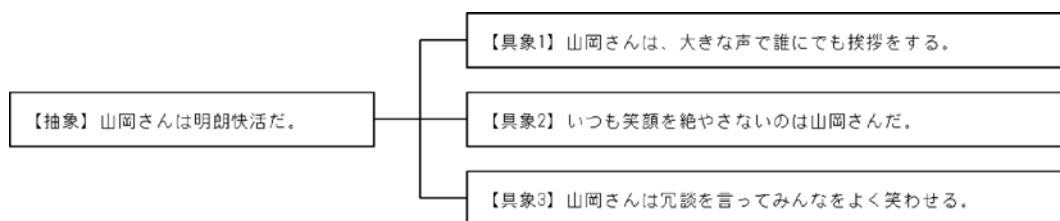


図2 ロジックツリーの例 (佐藤佐敏『5分できるロジカルシンキング簡単エクササイズ』学事出版, 2016年。13頁の図を基に筆者作成。)

表8 ロジカルシンキングエクササイズ

プログラム	ロジカルシンキングエクササイズ (ステップ1)
技法	シンキング
概要	論理的思考について説明を受けた後、段階的に難しくなるドリルを解く。
時間	0.5 講義回
手順	①ロジカルシンキングを解説する (動画)。②全員にドリル問題を配布し、単独で解かせる。③正解のみ示し、グループ内で解き方を教え合わせる。④もっとも難しい問題の解き方を解説する (動画)。
備考	権利関係をクリアするため、本書を全学生に購入させることが考えられる。

#### 4-3. マインドマップ (ステップ2)

マインドマップとは、思考を視覚化するツールのことで、知識や思考を発散させる力を高めることを狙いとする。考案者のトニー・ブザン (Tony Buzan) は「脳の中で次から次へと展開する思考をそのまま紙に描くカラフルで視覚的なノートで、一人でもグループでも作業できる。はじめに、テーマやトピックを表すセントラル・イメージを中心に描く。次に、セントラル・イメージから直接ブランチを伸ばしてそのテーマについての「主な考え」を展開する。中心から描き始めて放射状に広げること、すべてのメイン・ブランチがセントラル・イメージとつながっていることが特徴だ。そして、主な考えを表すメイン・ブランチの先からサブ・ブランチを広げてテーマを掘り下げる。また、それぞれのサブ・ブランチからさらにサブ・ブランチを伸ばして、その考えをもっと深く探求することもできる」と説明している。図3は筆者による例である。具体的な手順等は表9のとおりである<sup>(23)</sup>。

(23) トニー・ブザン『仕事に役立つマインドマップー眠っている脳が目覚めるレッスン』ダイヤモンド社, 2008年。25頁。なお、大学での講義にマインドマップを活用することについては、創価大学の事例を紹介した次の本を参考としている。関田一彦/山崎めぐみ/上田誠司『授業に生かすマインドマップーアクティブラーニングを深めるパワフルツール』ナカニシヤ出版, 2016年。

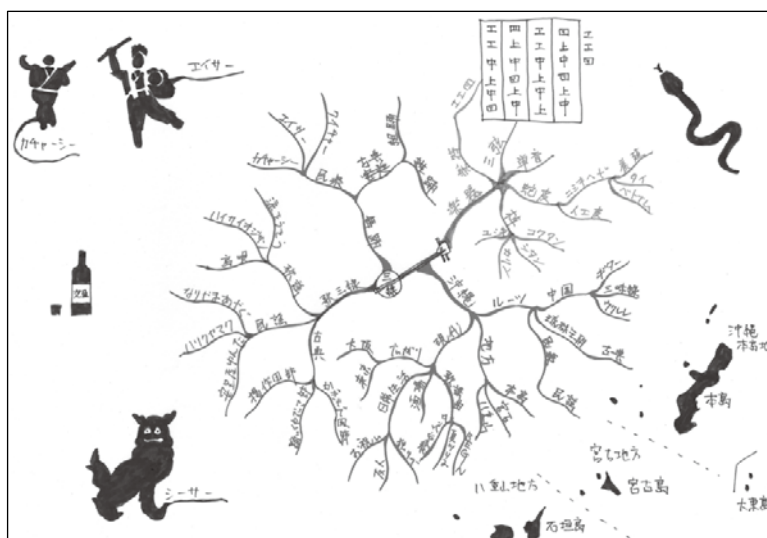


図3 マインドマップの例（沖縄三線をテーマにして筆者作成）

表9 マインドマップ

プログラム	マインドマップ（ステップ2）
技法	シンキング
概要	マインドマップについて説明を受けた後、自己紹介と意見のマインドマップの2つを作成する。
時間	1講義回
手順	①マインドマップの作り方を解説する（動画）。②全員に A4 白紙を配布し、自己紹介のマインドマップを描かせる。③マインドマップを用いて、グループ内で互いに自己紹介する。④意見のマインドマップの作り方を解説する（動画）。⑤全員に A4 白紙を配布し、社会的な課題についての意見を示すマインドマップを描かせる。⑥マインドマップを用いて、グループ内で自らの意見を表明し合う。
備考	教員が複数枚のマインドマップを事前に描き、見本とする。複数色のカラーペンを持参させる。

#### 4-4. 新聞社説の問い立て（ステップ2）

これは、思考を発散させた後に収束させ、問いを立てる力を高めることを狙いとし、新聞社説を読み、5W1Hに基づく複数の問いを立てるものである。問いを立てるには、思考の材料となる文章や事象等を理解し、発散という考えを広げていく過程を経てから、収束という考えを整理する解釈の過程を辿り、それらを経て残る疑問について、問いとして文章化することを要する。ここでは、その材料として新聞の記事（社説）を用いる。社会において複数の意見があることについて、事実を整理した上で、一定の視角から意見を示すものだからである。具体的な手順等は表10のとおりである<sup>(24)</sup>。

表10 新聞社説の問い立て

プログラム	新聞社説の問い立て (ステップ2)
技法	シンキング
概要	新聞社説を読み, 5W1Hに基づく複数の問いを立てる。
時間	1講義回
手順	①問いの立て方を説明する(動画)。②全員に同じ社説を配布し, 5W1Hに基づく疑問を10個以上, 付せんに書かせる。③グループごとに模造紙を配り, 「社会的に意味のある問い/社会的に意味の薄い問い」「調べれば簡単に答えが出そうな問い/調べても簡単に答えが出なさそうな問い」のマトリクスを作らせる。④グループでそれぞれの問いを4象限に分類する。⑤グループで議論させながら, 問いをグルーピングさせ, 要約の問いをそれぞれ作らせる。⑥「社会的に意味のある問い」について, インターネットで分担して調べさせる。⑦「簡単に答えが出た問い」と「答えが得られなかった問い」に分けさせ, 事前の予想が当たったものと事前の予想が外れたものそれぞれについて, その理由を議論で考えさせる。⑧学術的な「問い」について解説する(動画)。
備考	社説利用に際しての権利関係をクリアする必要がある。

#### 4-5. ジレンマのある問い (ステップ3)

これは, 社会の多面的な事柄に関する思考力を高めることを狙いとし, 新聞記事等を通じて多面的な意見を把握した後, 自らの意見とその理由を他者に説明するものである。社会のあらゆる事象は多面性を有しており, 具体性と抽象性を往復させながら考えることは, 大学で意識的に求められる思考の一つである。具体的な手順等は表11のとおりである。

表11 ジレンマのある問い

プログラム	ジレンマのある問い (ステップ3)
技法	シンキング
概要	社会における多面的な視点を有する事象について, 他者に意見とその理由を説明する。
時間	1講義回
手順	①他者への分かりやすい説明の方法を解説する(動画)。②過去の社会的な事象に関する複数の意見・視点を新聞記事として配布し, 読ませる。③CUCポータルをクリック機能を用い, 事前に準備した問い(第1問)について, 選択肢を選ばせ, その理由を140字以内(Twitterと同じ)で書かせる。④グループ内でそれぞれの選択と理由を説明させ, 理由説明が分かりやすいかどうか, どうすれば分かりやすく, 説得力を高められるか, という視点で批評させる。⑤第2問, 第3問と②③を繰り返させる。
備考	新聞記事の利用に際しての権利関係をクリアする必要がある。

#### 4-6. 裁判員裁判 (ステップ3)

これは, 刑事事件を題材にした複雑性の高い問題について, 自らの意見を形成するものである。材料としては, NHKが学習用に公開している「NHK for School」の「解説つき「さ

(24) レスリー・ジェーン・イールズ・レイノルズ/ブレンダ・ジャッジ/パトリック・ジョーンズ/エレイン・マックリーリー『大学生のためのクリティカルシンキング—学びの基礎から教える実践へ』北大路書房, 2019年。6-7頁の練習問題を基にしている。

るかに合戦」裁判」動画を用いる。童話の「さるかに合戦」をモチーフに「さる」を被告人とした裁判員裁判のドラマで、経緯や論点が説明される一方、判決という結論は示されない（視聴者の判断に委ねられる）。そのため、複雑性の高い問題であるにもかかわらず、学生間の議論の素材としやすい。学校等で教材として用いられることが前提となっており、動画使用に際しての権利関係の支障はない。具体的な手順等は表 12 のとおりである<sup>(25)</sup>。

狙いは、自らの意見を形成し、他者との対話で変容させ、合意形成する力を高めることにある。集合知を形成する力とも言い換えられる。裁判員裁判あるいは陪審制の目的は、市民としてのコモンセンスと多様な視点・経験を議論に反映させることで、より良い結論（集合知）を得ようとするところにある。そのため、模擬裁判員裁判は、集合知を形成する力を高めることに資すると考えられる。

表 12 裁判員裁判

プログラム	裁判員裁判（ステップ3）
技 法	シンキング
概 要	刑事事件を題材にした複雑性の高い問題について、自らの意見を形成する。
時 間	1 講義回
手 順	①ワークの流れを説明する（動画）。②〔解説つき「さるかに合戦」裁判〕の動画（25分）を視聴する。③動画で分からなかった点についてインターネットで調べさせ、自らの意見と理由をまとめさせる。④グループ内で議論し、判決と判決理由をまとめさせる。⑤各グループに、判決と判決理由を発表させる。発表後に質疑応答の時間を設ける。
備 考	法学を専門とする教員による解説動画を最後に見せることも考えられる。複雑な内容を思考させるため、秋学期に行うのが適切と考えられる。

## 5. ライティングのプログラム

ライティングのプログラムは、他者の文章を添削・批評するステップ1、文章を書いて相互批評するステップ2、パラグラフ・ライティング（PW）を理解するステップ3の三段階とする。文章を書く前に他者の文章の添削・批評から始めるのは、学生に自分の書く文章の問題を気づかせ、修正の機会を与えるためである。自分の書いた文章について、間違いや不正確さ等を他者から指摘されるのは、誰であっても気分のいいものではない。そのため、ピアラーニングによる相互批評を行う前に、心理的安全性を保てる他者の文章添削・批評から始める<sup>(26)</sup>。

(25) NHK for School「解説つき「さるかに合戦」裁判」[https://www2.nhk.or.jp/school/movie/bangumi.cgi?das\\_id=D0005180367\\_00000](https://www2.nhk.or.jp/school/movie/bangumi.cgi?das_id=D0005180367_00000)

(26) 心理的安全性については、次の本を参考とした。エイミー・C・エドモンドソン『恐れのない組織―「心理的安全性」が学習・イノベーション・成長をもたらす』英治出版、2021年。

### 5-1. 赤ペン添削 (ステップ1)

これは、間違いを含む様々な難易度の文章例について、赤ペンで添削させるもので、正確な文章と誤った文章の違いを理解させることを狙いとする。教員が用意する「間違い文章例」を添削するため、学生の自尊心を傷つける恐れは薄い。一方、グループでの添削内容の論評を通じて、自らの文章理解を見直させる機会とする。具体的な手順等は表13のとおりである。

表13 赤ペン添削

プログラム	赤ペン添削 (ステップ1)
技法	ライティング
概要	間違いを含む様々な難易度の文章例を赤ペンで添削する。
時間	0.5 講義回
手順	①正しい文章と作業のやり方を解説する (動画)。②全員に複数の誤った文章ペーパーを配布し、単独で添削させる。その際、インターネットの参照を認める。③グループ内で添削内容の比較と論評をさせる。④正答モデルを配布し、解説する (動画)。
備考	予め様々な難易度の「間違った文章例」を作成しておく。

### 5-2. 引用コメント (ステップ1)

これは、他者の書いた文章を引用し、それについて自らのコメントをつけるもので、文章を引用し、自らの意見を展開する手法を理解することを狙いとする。新聞社説を用いる。引用に際しては「言い換える」「説明する」「意見を付す」の3種の作業を行う。本格的な文章作成や学術的な引用方法を学ぶ準備段階を兼ねる。グループ内で相互論評することを通じて、自らとは異なる視点や新たな気づきを得ることにもなる。具体的な手順等は表14のとおりである<sup>(27)</sup>。

表14 引用コメント

プログラム	引用コメント (ステップ1)
技法	ライティング
概要	他者の書いた文章を引用し、自らのコメントをつける。
時間	0.5 講義回
手順	①作業のやり方を解説する (動画)。②全員に新聞社説を配布し、適当な文章を引用させてコメントを付けさせる。CUC ポータルで共有する。③グループ内で全員に報告させ、分かりやすさについて論評をさせる。④論評を受けて、コメントを作成し直す。
備考	社説利用に際しての権利関係をクリアする必要がある。

(27) エリザベス・F・バークレイ他前掲139-143頁を基にしている。



### 5-3. 意見文作成（ステップ2）

これは、同じ趣旨で異なる文章量の意見文を書き、相互に批評することで、文章を書くこと自体の経験を積むことを狙いとする。自らの文章で、意見を他者に分かりやすく伝えられるか、一定の字数制限の中で工夫することで、文章力をトレーニングする。これは、流通科学大学における初年次教育プログラムで行われている手法を参考にした。本学のホームページ「MIRAI Times」を用いるのは、この機会に本学の多様な活動や論説を知ってもらおうと共に、学生の多様な関心に沿って能動的に意見文を作成してもらうためである。具体的な手順等は表15のとおりである<sup>(28)</sup>。

表 15 意見文作成

プログラム	意見文作成（ステップ2）
技 法	ライティング
概 要	同じ趣旨で異なる文章量の意見文を書き、相互に批評する。
時 間	1 講義回
手 順	①意見文の書き方と作業のやり方を解説する（動画）。②千葉商科大学「MIRAI Times」を自由に閲覧させる。③同じテーマ・意見内容で50字と200字の意見文2種を全員に書かせる。CUCポータルを使って書かせ、全員が相互閲覧できるようにする。④ペアを組ませ、意見の説得力について相互に批評させる。
備 考	<a href="https://www.cuc.ac.jp/om_miraitimes/">https://www.cuc.ac.jp/om_miraitimes/</a>

### 5-4. 引用と参考文献・注（ステップ2）

引用と参考文献・注の正しい付け方を理解するため、文章の根拠の重要性、引用と参考文献・注の付け方を学び、実際に書いてみるものである。これは、ほぼすべての大学の一般的な初年次教育に含まれるものであるが、ピアラーニングの手法を活用し、学生間で教え合いや気づかせ合いが行われやすいようにする必要がある。それにより、日ごろから間違いに気づいたり、教え合ったりすることが促進されると考えられる。具体的な手順等は表16のとおりである。

(28) 西川真理子／橋本信子／山下香／石黒太／藤田里実『アカデミック・ライティングの基礎—資料を活用して論理的な文章を書く』見陽書房、2017年。39頁。

表16 引用と参考文献・注

プログラム	引用と参考文献・注 (ステップ2)
技法	ライティング
概要	文章の根拠の重要性, 引用と参考文献・注の付け方を学び, 実際を書く。
時間	1 講義回
手順	①根拠の重要性, 引用と参考文献・注の付け方を解説する (動画)。②引用が不明確で, 参考文献・注のない文章例を配布し, 各自で読ませて問題ある個所に下線を引かせ, グループ内で意見を述べ合わせる。③引用と参考文献・注が空欄等になっているドリルペーパーを配布し, 記入させる。④グループ内で, 答え合わせをさせる。⑤正答を配布し, 解説する (動画)。
備考	共通のドリルペーパーを予め作成する必要がある。

### 5-5. パラグラフ・ライティング導入 (ステップ3)

これは, PW を理解するため, 実際に PW の構成をつくってみるものである。いきなり PW の文章を書くのではなく, ロジックツリーを使って, 文章全体の構成を考えることに集中する。それにより, 文章の主旨とパラグラフ間の論理的な関係に注意を払わせる。学生には, 論理的な思考の結果としての論理的な文章であることを理解させる。具体的な手順等は表17のとおりである<sup>(29)</sup>。

表17 パラグラフ・ライティング導入

プログラム	パラグラフ・ライティング導入 (ステップ3)
技法	ライティング
概要	PW の構成をつくる。
時間	1 講義回
手順	①PW を解説する (動画)。②PW の見本を配り, 各自で読ませた後, グループ内で全員に感想を述べ合わせる。③新聞の社説とPW のロジックツリー (空欄) を配布し, 社説の構成を記入させる。④グループ内で, 構成ツリーの内容を報告させる。⑤グループでの議論を受け, 赤字で構成を修正させる。⑥正答を配布し, 解説する (動画)。
備考	社説利用に際しての権利関係をクリアする必要がある。ロジックツリーのペーパーを事前に作成しておく必要がある。

### 5-6. パラグラフ・ライティング発展 (ステップ3)

これは, 実際に PW の文章を書いてみることで, PW を理解することを狙いとする。具体的な手順等は表18のとおりである。なお, このプログラムだけで PW の文章を書けるようになる可能性は低いため, 第2論説で提案した「学修を助けるための共通のガイドライン」を全学的な視点で作成し, 基盤教育機構及び各学部, 図書館のライティングサポートセンター等で連携して PW の文章を書けるよう, 育成していく必要があるだろう。

(29) ここで説明している PW を理解するためのメソッドは次の本に基づく。倉島保美『改訂新版書く技術・伝える技術』あさ出版, 2019年。

表 18 パラグラフ・ライティング発展

プログラム	パラグラフ・ライティング発展（ステップ3）
技 法	ライティング
概 要	PW の文章を書く。
時 間	1 講義回
手 順	①PW の書き方を解説する（動画）。②パラグラフの冒頭文だけを書いた文章を基に、インターネットで調べさせながら、パラグラフを完成させる。CUC ポータルで共有できるようにする。③完成させた文章をグループ内で発表させ、相互に批評させる。④総論のパラグラフだけを書いた文章を基に、インターネットで調べさせながら、各論のパラグラフを作成させる。⑤ペアを組ませ、相互に批評させる。
備 考	CUC ポータルで文章を共有する仕組みを予め準備しておく必要がある。

## 6. 総合のプログラム

総合のプログラムは、講義全体と各講義回のマインドセット等を行うステップ1、学部等での研究と将来へのマインドセット等を行うステップ2、共通入門科目での学びの振り返り等を行うステップ3の三段階とする。リーディング、シンキング、ライティングのプログラムにおいても、その技法のみに特化するものは少なく、たいいて他の技法を組み合わせていた。一方、そうであっても、特定の技法に焦点を当てていた。総合のプログラムでは、マインドセットと各技法の総合的な活用により、技法の修得を深めていく。そして、ピアラーニングを含めて春学期と秋学期に学ぶ技法の集大成として、ポスター発表に取り組む。

### 6-1. 大学とは何か（ステップ1）

大学で学ぶためのマインドセットをするため、高校までの教育と大学での教育の違いを解説し、学生に大学での抱負を示してもらおう。とりわけ、高校までの教育で「問いと答え」が用意されているのに対し、大学教育では「問いと答え」を自ら探求することを理解させる。それにより、高校までの受動的な学びの姿勢でなく、能動的な姿勢が大学で求められることを喚起する。自己紹介を兼ねた大学生活での抱負表明も行ってもらい、共通入門科目の全体的な説明（ガイダンス）やCUCポータルの使い方説明と合わせて、春学期の第1回講義で行う。具体的な手順等は表19のとおりである。

表 19 大学とは何か

プログラム	大学とは何か (ステップ1)
技 法	総合
概 要	高校までの教育と大学での教育の違いを解説し、大学での抱負を示す。
時 間	1 講義回
手 順	①高校までの教育と大学での教育の違いや大学の意義を解説する (動画)。②担当教員が自己紹介をする。③ CUC ポータルのクリッカーを用い、出身地を選択させ、自己紹介・大学での抱負のコメントを140字以内で記入させる。④全員が記入した後、全員に口頭で自己紹介させる。
備 考	講義全体や CUC ポータルの使い方等の説明を含めて、1 講義回となる。

### 6-2. 導入・ふり返り (ステップ1)

これは、講義の最初に当該講義回に関する簡単な質問をし、講義の最後にその講義で学んだことを整理するもので、講義へのマインドセットと講義内容の定着を図る。CUC ポータルのクリッカー機能を使うことで、学生の選択結果をグラフ化でき、コメントを学生間で共有できる。また、記入時間が分かるので出欠確認に使い、認証コードを予め設定することで不正も抑制できる。具体的な手順等は表 20 のとおりである。

表 20 導入・ふり返り

プログラム	導入・ふり返り (ステップ1)
技 法	総合
概 要	講義の最初に簡単な質問をし、講義の最後に学んだことを整理する。
時 間	導入5分/ふり返り10分
手 順	①毎回の講義の最初5分と最後10分にCUCポータルのクリッカーを記入させる。②最初のクリッカーは、その日の講義内容に関する簡単な質問と選択肢、選択の理由を70字以内で書かせる。最後のクリッカーは5段階の選択肢 (しっかりと理解できた、理解できたが多少の疑問が残る、半分くらいしか理解できなかった、あまり理解できなかった、まったく理解できなかった) とする。③コメントは140字以内で記入させ、その講義を受ける前と受けた後で自分にどのような変化があったのかを書かせる。④認証コードの記入を要することとし、出欠チェックにも用いる。認証コードは、講義で伝える。
備 考	予めクリッカーの準備をしておく必要がある。他のプログラムは、このプログラムの実施を前提とする。

### 6-3. me R AI (みらい) (ステップ2)

将来を長期的に考えて大学で学ぶことへの動機づけを狙いとし、就職活動の流れやサポートを理解してもらい、実際に本学の就職支援サイトに情報を記入する。「me R AI」は本学の就職支援サイトで、自らの経歴や経験、大学での活動、就職への考え方等を一括して記入するサイトで、本学で提携する企業の人事担当者も閲覧できる。第二論説で論じたように、将来の見通しを持ち、それに向かって何らかの行動をしている学生が、学業に対して積極的な姿勢を示すことから、就職活動の前倒しというよりも、学業への積極性を引き出すプログラムになると考えられる。また、自らのことを記入することは、考えて文

章を書くことを意味する。具体的な手順等は表 21 のとおりである<sup>(30)</sup>。

表 21 me R AI (みらい)

プログラム	me R AI (みらい) (ステップ 2)
技 法	総合
概 要	就職活動の流れやサポートを理解し、就職支援サイトに情報を記入する。
時 間	0.5 講義
手 順	①本学の就職状況と就職活動の流れ、サポートを解説する (動画)。②グループ内で卒業後のことを考えているか、話し合わせる。③支援サイト「me R AI」に記入してみる。
備 考	キャリア支援センターの協力を得る必要がある。広い意味での社会に出ることを含めた動機づけ等を含めて 1 講義にすることも考えられる。

#### 6-4. レポート・論文とは何か (ステップ 2)

レポートと論文の書き方を理解するため、レポートと論文の定義と要素を説明し、例となるレポートと論文を読んでみるものである。高校までの教育において、レポート及び論文を書くトレーニングをほとんど受けておらず、書いてきた長文はレポート及び論文とは異なる文章 (作文, 感想文, 小論文) であったため、ほとんどすべての学生は、入学時点でレポート及び論文を書く能力を有していない。そのため、レポート及び論文の定義から説明し、書き方を教えなければならない。具体的な手順等は表 22 のとおりである<sup>(31)</sup>。

表 22 レポート・論文とは何か

プログラム	レポート・論文とは何か (ステップ 2)
技 法	総合
概 要	レポートと論文の定義と要素を説明し、例となるレポートと論文を読む。
時 間	1 講義
手 順	①レポートと論文の定義と要素を解説する (動画)。②レポートの例を全員に配布して目を通させる。③グループ内で疑問点や気づいた点を述べ合わせる。④論文の例を全員に配布して目を通させる。⑤グループ内で疑問点や気づいた点を述べ合わせる。
備 考	共通で配布する適切なレポートと論文の例を予め用意する。

#### 6-5. ポスター発表 (ステップ 3)

共通入門科目の全体で学んだことを総合的に定着させるため、秋学期の第 12 回に、グループ単位でポスター発表を行うものである。ポスターの書式は、図 4 のように共通で指

(30) 溝上慎一『高大接続の本質―「学校と社会をつなぐ調査」から見えてきた課題』学事出版, 2018 年。初年次教育とライフキャリアの整理を結びつけることについては、次の本を参考としている。齊藤博/上本裕子『大学 1 年からのキャリアデザイン実践』八千代出版, 2017 年。

(31) レポート・論文の定義等は、説明者によって異なる場合がある。ここでは、論文を「問いと答えのある文章」と、レポートを「示された問いに答える文章」と定義している。次の本の定義に基づき、簡略化したものである。東京都立高等学校司書会ラーニングスキルガイドプロジェクトチーム編著『学校司書と学ぶレポート・論文作成ガイド』ペリかん社, 2019 年。12-13 頁。

定し、単なる「調べ学習」にならないように工夫する。ポスター発表の題は、全クラス共通とする一方、レポートと同様にその解釈は学生に任せる。発表時は、全員が発表者となり、他のポスター発表を見て回れるよう、ローテーションを組ませる。具体的な手順等は表23のとおりである。

演題 発表者名	
<b>1. はじめに</b> <b>目的</b> ・ どのような問題に取り組むのか ・ 何をやるのか <b>背景</b> ・ 何を前にして ・ どうして取り組むのか ・ どういう着眼点で（着眼理由も）	<b>まとめ</b> <b>結論</b> 結論 ↑ ↑ なぜなら ↑ 根拠 ○○のために 「どうして取り組むのか」に回答
<b>2. 研究対象・方法・結果</b> <b>研究対象</b> ・ 研究対象の説明 <b>方法</b> ・ 簡単な説明 <b>結果</b> ・ 収集した情報のまとめ ・ 分かりやすい形にしたデータ	<b>3. 考察</b> <b>結果の解釈</b> ・ 相応しいタイトルにする <b>先行研究等を踏まえた解釈</b> ・ 結論の検証 ・ 対立仮説との比較検討 <b>その他の分析</b> ・ 副次的に明らかとなったこと
付録	
参考文献・注など	

図4 ポスターの基本構成の例（酒井聡樹『これから学会発表する若者のために一ポスターと口頭のプレゼン技術』共立出版、2008年、130頁を基に筆者作成）

表23 ポスター発表

プログラム	ポスター発表（ステップ3）
技法	総合
概要	秋学期の第12回に、グループ単位でポスター発表を行う。
時間	4講義
手順	①第9回講義で、ポスター発表の題とやり方を解説する（動画）。②グループで話し合わせ、当日までの作業計画を作らせる。③その後の時間と第10回、第11回講義の時間について、導入と最後のふり返し以外を作業時間に充てる。④第12回講義の最初の10分間でポスター貼り付け等の作業を行わせ、60分間のポスター発表会を始める。他のクラスのポスター発表も一堂に行う。一人に一つのシールを配り、自分のグループ以外の発表で良いと思うものに貼らせる。⑤60分経過後、全員を自分のポスターの場所に戻らせ、貼られたシールを数えさせる。数は担当教員が把握する。⑥全クラスの中からもっともシール数の多かったグループを表彰する。
備考	ポスターは、一枚印刷でなく、模造紙（788 × 1091 mm）に文字の貼り付けや手書きで記入する。優秀ポスター等は、図書館等で一定期間、掲示することも考えられる。

### 6-6. ふり返しレポート（ステップ3）

講義内容の定着を図るため、春学期・秋学期の最終講義（第13回）の時間内に、共通入門科目で学期を通じて学んだ技法をふり返らせ、レポートとして提出させるものである。これ以外のすべてのプログラムはピアラーニングを取り入れているが、これは自ら省みることを重視し、ピアラーニングを採用していない。事前にレポート課題を示し、CUCポータルを通じて提出させるが、原則として教室で全員一斉に取り組ませる。これは、共通入門科目が必修科目であるため、レポートの提出忘れ・遅れを防ぐためである。具体的な手順等は表24のとおりである<sup>(32)</sup>。

表24 ふり返しレポート

プログラム	ふり返しレポート（ステップ3）
技 法	総合
概 要	学期の最後に技法をふり返し、レポートとして提出する。
時 間	1 講義
手 順	①通常の試験と同じように、間隔を置いて座らせる。②自らのパソコンで記入し、提出する。持ち込みは自由とし、提出後は退出させる。③「この講義を通じて高めた能力は何か。もっとも高めた能力から順に3つを挙げ、どのような能力なのかを説明すると共に、学ぶ前と後でどのように変化したのかを具体的に説明しなさい。」との課題で、1200字以上1600字以内とする。ワードの添付ファイルで提出させる。
備 考	期限後の提出も一定の期間認めるが、締め切りの重要性を認識させるため、減点とする。

## 7. おわりに

本稿では、リーディング、シンキング、ライティング、ピアラーニングの4技法を修得するためのプログラムを検討した。プログラムの検討に際しては、導入（ステップ1）、基礎（ステップ2）、発展（ステップ3）の三段階にそれぞれ整理した。それに先立ち、第二論説で十分に検討できなかったピアラーニングについて検討も行った。

ピアラーニングは「新しい概念の教養教育」で育成が求められる能力であることに加え、それ自体が有効な学習方法である。相互に知見を発展・統合させることで、学習内容への理解が深まると考えられる。一方、フリーライダーの出現等という短所が内在しているため、プログラムのデザインに際して考慮が必要となる。また、ピアラーニングは、単独で身につけることは不可能でないが、他の技法を身につける学習手法として用いれば、より効率的である。そこで、ピアラーニングについては、他の技法のプログラムそれぞれに複合的に取り入れることとした。

(32) ここでレポートの制限字数を1200字以上1600字以内としているのは、多くの高校生が1200字を超える字数の文章を書いた経験に乏しいことを踏まえている。大正大学の学生への調査によると、高校在学中に書いた文章の字数は、大半が1200字以内であった。そのため、最初の長文執筆の経験として1200字を超える字数が適切と考えられる。春日美穂／近藤裕子／坂尻彰宏／島田康行／根来麻子／堀一成／由井恭子／渡辺哲司『あらためて、ライティングの高大接続—多様化する新入生、応じる大学教師』ひつじ書房、2021年。17頁。

リーディングのプログラムは、長い文章を読むことへの心理的ハードルを下げるステップ1、文章の読みわけを理解するステップ2、長い文章を理解して他者に伝えるステップ3の三段階とし、次の6プログラムを提案した。ビブリオバトル・導入(ステップ1)、本を借りる図書館ツアー(ステップ1)、新聞社説の読み分け(ステップ2)、PREPリーディング(ステップ2)、ビブリオバトル・新書しばり(ステップ3)、ジグソー・リーディング(ステップ3)である。

シンキングのプログラムは、考えること自体への心理的ハードルを下げるステップ1、発散的な思考と収束的な思考を理解するステップ2、抽象的な思考を理解するステップ3の三段階とし、次の6プログラムを提案した。推理パズル(ステップ1)、ロジカルシンキングエクササイズ(ステップ1)、マインドマップ(ステップ2)、新聞社説の問い立て(ステップ2)、答えのない問い(ステップ3)、裁判員裁判(ステップ3)である。

ライティングのプログラムは、他者の文章を添削・批評するステップ1、文章を書いて相互批評するステップ2、パラグラフ・ライティングを理解するステップ3の三段階とし、次の6プログラムを提案した。赤ペン添削(ステップ1)、引用コメント(ステップ1)、意見文作成(ステップ2)、引用と参考文献・注(ステップ2)、パラグラフ・ライティング導入(ステップ3)、パラグラフ・ライティング発展(ステップ3)である。

総合のプログラムは、講義全体と各講義回のマインドセット等を行うステップ1、学部等での研究と将来へのマインドセット等を行うステップ2、共通入門科目での学びのふり返し等を行うステップ3の三段階とし、次の6プログラムを提案した。大学とは何か(ステップ1)、導入・ふり返し(ステップ1)、me R AI(ステップ2)、レポート・論文とは何か(ステップ2)、ポスター発表(ステップ3)、ふり返しレポート(ステップ3)である。

それでは、第一論説、第二論説、本稿の検討結果について、現実の制約を踏まえて、どのように本学の共通入門科目として実装すべきなのか。制約としては、時間、資源、施設、教員等が考えられ、それらを考慮しつつ、最大限に効果的なプログラムを検討する必要がある。第一論説で明らかにした職業的レリバンスとラーニング・ブリッジングの重要性を考慮する必要もある。

最後に、本稿に対して寺野隆雄、柁岡大輔の両氏から有益なコメントをいただいた。この場を借りて感謝申し上げる。

(2022.11.25 受稿, 2023.2.2 受理)



〔抄 録〕

本稿は、リーディング、シンキング、ライティング、ピアラーニングの4技法を修得するためのプログラムを検討する。第二論説で十分に検討できなかったピアラーニングについて検討した後、プログラムについて、導入（ステップ1）、基礎（ステップ2）、発展（ステップ3）の三段階で検討する。

ピアラーニングは、新しい概念の教養教育で育成が求められる能力であることに加え、それ自体が有効な学習方法である。ピアラーニングは、単独で身につけることは不可能でないが、他の技法を身につける学習手法として用いれば、より効率的である。そこで、ピアラーニングについては、他の技法のプログラムそれぞれに複合的に取り入れる。

リーディングのプログラムは、長い文章を読むことへの心理的ハードルを下げるステップ1、文章の読みわけを理解するステップ2、長い文章を理解して他者に伝えるステップ3とする。

シンキングのプログラムは、考えること自体への心理的ハードルを下げるステップ1、発散的な思考と収束的な思考を理解するステップ2、抽象的な思考を理解するステップ3とする。

ライティングのプログラムは、他者の文章を添削・批評するステップ1、文章を書いて相互批評するステップ2、パラグラフ・ライティングを理解するステップ3とする。

総合のプログラムは、講義全体と各講義回のマインドセット等を行うステップ1、学部等での研究と将来へのマインドセット等を行うステップ2、共通入門科目での学びのふり返り等を行うステップ3とする。

—Abstract—

This research paper examines a program for acquiring the four skills of reading, thinking, writing, and peer learning. Peer learning is an effective learning method, in addition to being a skill that needs to be nurtured in a new concept of liberal arts education. Peer learning will be incorporated into each of the programs of other techniques. The reading program consists of step 1 to lower the psychological hurdles to reading long sentences, step 2 to understand how to read the sentences, and step 3 to understand long sentences and communicate them to others. The thinking program consists of step 1 to lower the psychological hurdles to thinking itself, step 2 to understand divergent and convergent thinking, and step 3 to understand abstract thinking. The writing program consists of step 1 to correct and critique the writings of others, step 2 to write and critique each other's writings, and step 3 to understand paragraph writing. The integrated program consists of Step 1 that the whole lecture and the mindset for each lecture is conducted, Step 2 that research at the undergraduate level and the mindset for the future are conducted, and Step 3 that students reflect on what they have learned in common introductory courses.